

泉ある家

宮沢賢治

青空文庫

これが今日きようのおしまいだろう、と云いながら齊田さいたは青じろい薄はくめいながの流ながれはじめた県道に立つて崖がけに露ろ出した石せき英斑岩えいはんがんから一かけの標ひようほん本をとつて新聞紙に包んだ。

富沢とみざわは地図のその点だいたいぬに橙を塗つて番号ばんごうを書きながら読んだ。齊田はそれを包みの上に書きつけて背囊はいのうに入れた。

二人は早く重おもい岩石ふくろの袋をおろしたさにあとはだまつて県道を北へ下つた。

道の左には地図にある通りの細い沖積地ちゅうせきちが青金あおがねの鉾山こうざんを通つて来る川そに沿そつて青くけむつた稲いねを載のせて北へ続つづいていた。山の上では薄明穹はくめいきゆうの頂いただきが水色に光つた。俄にわかに齊田が立ちど

まった。道の左側ひだりがわが細い谷になっていてその下で誰かが屈だれかがんで何かしていた。見るとそこはきれいな泉いずみになっていて粘板岩ねんばんがんの裂さけ目から水があくまで溢あふれていた。

（一寸おたずねいたしますが、この辺へんに宿屋やどやがあるようですがどっちでしょうか。）

浴衣ゆかたを着た髪かみの白い老人ろうじんであつた。その着きこなしも風采ふうさいも恩給おんきゆうでもとっている古い役人やくにんという風だつた。露ふきを泉いずみに浸ひたしていたのだ。

（宿屋ここらにありません。）

（青金あおがねの鉱山こうざんできて来たのですが、何でも鉱山の人たちなども泊とめるそうで。）

老人ろうじんはだまってしげしげと二人の疲つかれたなりを見た。二人とも巨おおきな背はい囊のうをしょって地図を首からかけて鉄かなづち槌もちを持もっている。そしてまだまるでの子供こどもだ。

（どっちからお出いでになりました。）

（郡ぐんから土性調どせいちようさ査をたのまれて盛岡もりおかから来たのですが。）

（田畑たはたの地味ちみのお調べしらべですか。）

（まあそんなことで。）

老人は眉まゆを寄よせてしばらく群ぐん青じよういろに染そまった夕ゆふぞらを見た。それからじつに不思議ふしぎな表ひよう情じようをして笑わらった。

（青金で誰だれか申もう上げたのはうちのことですが、何なに分汚ぶんきたないし、いろいろ失しつれい礼れいばかりあるので。）（いいえ、何もいらないので

。

（それではそのみちをおいでください。）

老人はわずかに腰をまげて道と並行にそのまま谷をさがった。五、六歩行くとそこにすぐ小さな榎屋があつた。みちから一間ばかり低くなつて蘆をこつちがわに塀のように編んで立てていたの
でいままで気がつかかなかつたのだ。老人は蘆の中につくられた
四角なくぐりを通つて家の横に出た。二人はみちから家の前にお
りた。

（とき、とき、お湯持つて来。）老人は叫んだ。家のなかはしん
として誰も返事をしなかつた。けれども富沢はその夕暗と沈
黙の奥で誰かがじつと息をこらして聴き耳をたてているのを感じ

じた。

（いまお湯をもつて来ますから。）老人はじぶんどりに行く風だった。（いいえ。さっきの泉で洗いますから、下駄をお借りして。）老人は新らしい山桐の下駄とも一つ縄緒の栗の木下駄を気の毒そうに一つもつて来た。

（どうもこんな下駄で。）（いいえもう結構で。）

二人はわらじを解いてそれからほこりでいっぱいになった巻脚絆をたたいて巻き俄かに痛む膝をまげるようにして下駄をもつて泉に行った。泉はまるで一つの灌漑の水路のように勢よく岩の間から噴き出ていた。斉田はつくづくかがんでその暗くなつた裂け目を見て云つた。（断層泉だな。）（そうか。）

富沢は露ふきをつけてある下のところに足を入れてシャツをぬいで汗あせをふきながら云った。

頭あちを洗あらつたり口をそそいだりして二人はさつきのくぐりを通つて宿やどへ歸つて来た。その煤すすけた天照大神あまてらすおおみかみと書いた掛物かけものの床とこの間の前には小さなランプがついて二枚まいの木綿もめんの座布団ざぶとんがさびしく敷しいてあつた。向むうはすぐ台所だいどころの板いたの間まで炉ろが切つてあつて青い煙けむりがあがりその間にはわずかに低い二枚折まいおりの屏風びょうぶが立たつていた。

二人はそこにあつたもみくしやの単衣ひとえを汗あせのついたシャツの上うへに着きて今日の仕事しごとの整理せいりをはじめた。富沢とみざわは色鉛筆いろえんぴつで地図ちずをいろど彩いろどり直したり、手帳てちようへ書き込こんだりした。斉田さいたは岩石がんせきの標本ひようほんを

番号をあらためて包み直したりレッテルを張ったりした。そしてすっかり夜になった。

さつきから台所でことやつていた二十ばかりの眼の大きな女がきまり悪そうに夕食を運んで来た。その剥げた薄い膳には干した川魚を煮た椀と幾片かの酸えた塩漬けの胡瓜を載せていた。二人はかわるがわる黙つて茶椀を替えた。

（この家はあのおじいさんと今の女のひと二人切りなようだな。）膳が下げられて疲れ切つたようにねそべりながら斉田が低く云つた。

（うん。あの女の人は孫娘らしい。亭主はきつと礪山へでも出ているのだろう。）ひるの青金の黄銅鉈や方解石に

石榴石ざくろいしのまじった粗鉦そこうの堆たいを考えながら富沢は云った。女はまた入って来た。そして黙もくつて押入おしいれをあけて二枚のうすべりといの角かくまくら枕まくらをならべて置いてまた台所の方へ行いつた。

二人はすっかり眠ねむる積つもりでもなしにそこへ長くなつた。そしてそのままうとうとした。

ダーダーダーダーダースコダーダー

強い老ろうじん人らしい声が劍舞けんばいの囃はやしを叫さけぶのにびっくりして富と沢みざわは目をさました。台所の方で誰だれか三、四人の声がかやがやしているそのなかでいまの声がしたのだ。

ランプがいつか心しんをすっかり細められて障子しょうじには月の光が斜ななめに青じろく射さしている。盆ぼんの十六日の次の夜なので劍舞けんばいの太鼓たいこ

でも叩^{たた}いたじいさんらなのかそれともさっきのこのうちの主人^{しゅじん}なのかどっちともわからなかった。

（踊^{おど}りはねるも三十がしまいつて、さ。あんまりじさまの浮^うかれだのも見だぐないもんさ。）むっとしたような慄^{ひよう}悍^{かん}な三十台の男の声^{こゑ}がした。そしてしばらくしんとした。

（雀^{すずめ}百まで踊^{おど}り忘れ^{わす}れずでさ。）さっきの女らしい細い声^{こゑ}が取りなした。

（女^{おね}こ引^ひぱりも百までさ。）またその慄^{おそ}悍^{かん}な声^{こゑ}が刺^さすように云^いつた。そしてまたしんとした。そして心^{しん}配^{ぱい}そうな息^{いき}をこくりとのむ音が近くにした。富沢は蚊帳^{かや}の外^{そと}にここの主人^{しゅじん}が寝^ねながらじつと台所の方^{ほう}へ耳^{みみ}をすましているのを半分夢^{ゆめ}のように見た。

（さあ帰って寝るかな。もつ切り二つつだな。そいであこいづと
 ）（戻るすか。）さっきの女の声がした。こつちではきせるを
 たんたん続けて叩いていた。（亦来るべいさ。）何だか哀れに云
 って外へ出たらしい音がした。

あとはもう聞えないくらいに低い物言い、隣りの主人からは安
 心に似たようなしずかな波動がだんだんはつきりなつた月あか
 りのなかを流れて来た。そして富沢はまたとろとろした。次
 々うつるひるのたくさんの青い山々の姿や、きらきら光るもや
 の奥を誰かが高く歌を歌いながら通つたと思つたら富沢はまた弱
 く呼びさまされた。おもての扉を誰か酔つたものが歌いながら烈
 しく叩いていて主人が「返事するな、返事するな。」と低く娘に

云っていた。さっきの男も帰って娘もどこかに寝ているらしかった。「寝たのか、まだ明るぞ。起きろ。」

外ではまたはげしくどなった。

（ああこんなに眠らなくては明日の仕事がひどい。）富沢は思いながら床の間の方にいた齊田を見た。

齊田もはつきり目をあいて低く鋤夫だなど云った。富沢は手をふって黙っていろと云った。こんなときものを云うのは老人にどうしても氣の毒でたまらなかった。

外ではいよいよ暴れ出した。とうとう娘が屏風の向うで起きた。そして（酔ったぐれ、大きらいだ。）とどうやらこつちを見ながらわびるように誘うようになまめかしく呟いた。そして足音

もなく土間^{どま}へおりて戸をあけた。外ではすぐしずまった。女はいろいろ細い声で訴^{うった}えるようにしていた。男は酔^よっていないような声でみじかく何か訊^ききかえしたりしていた。それから二人はしばらく押問答^{おしもんどう}をしていたが間もなく一人ともつかず二人ともつかず家のなかにはいつて来てわずかに着物^{きもの}のうごく音などした。そしていつぱいに気兼^{きが}ねや恥^{はじ}で緊^{きん}張^{ちやう}した老人^{ろうじん}が悲^{かな}しくこくりと息^{いき}を呑む音がまたした。

青空文庫情報

底本：「ポラーノの広場」角川文庫、角川書店

1996（平成8）年6月25日初版発行

底本の親本：「新校本 宮澤賢治全集」筑摩書房

1995（平成7）年5月

入力：ゆうき

校正：noriko saito

2009年8月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

泉ある家

宮沢賢治

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>